



Violin 河村 真央 Kawamura Mao

1995年1月生、5歳よりヴァイオリンを始める。

第27回ベガ・フレッシュコンサートに出演。2011年、ハビブ=カヤレイ氏の公開レッスン受講。森悠子氏主催の音楽家のためのキャパシティビルディングを受講。NAGANO 国際音楽祭2012に参加。2012年、洲本市にて音の花束コンサートに出演。第66回全日本学生音楽コンクール大阪大会入選。2010年より、センチュリー・ユース・オーケストラに所属。

これまでに太田圭亮氏、荒田和豊氏、大内山薫氏、谷本華子氏、澤和樹氏、池川章子氏に師事。福岡音楽学院附属幼稚園、兵庫県立西宮高校音楽科を経て、現在京都市立芸術大学1回生。

Violin 高田 春花 Takada Haruka

1995年2月19日生まれ。6歳よりヴァイオリンを始める。

2003年、15回毎日学生音楽コンクール本選会小学校高学年の部銀賞。2008年、17回毎日学生音楽コンクール本選会中学生の部銀賞。2009年、18回同コンクール銀賞。2010年、19回 全日本学生コンクール課題曲コース高校の部第2位(1位該当者なし)。2011年、20回同コンクール奨励賞(1,3位該当者なし)。2012年21回同コンクール奨励賞(1,3位該当者なし)。2003年より桐朋学園大学附属子供のための音楽教室に入室。

福島紫氏、豊嶋泰嗣氏に師事。現在京都市立芸術大学1回生

Viola 坪ノ内 裕太 Tsubonouchi Yuta

1993年11月18日生、4歳の頃からヴァイオリンを始める。

2002年熊楠の里音楽コンクール第1位、2003年子どものためのヴァイオリンコンクール金賞。その後中学受験のため中絶。その後中学、高校では吹奏楽部に所属。パーカッションパートを担当し、アンサンブルを経験する。2009年マリンバでソロコンテスト参加、優良賞。2009年より中絶していたヴァイオリンを再開して、明石ジュニアオーケストラのコンサートマスターを勤める。このオーケストラの経験によりヴィオラの音色に魅せられヴィオラを始める。ヴァイオリンを菊地佳奈子、ヴィオラを山本由美子各氏に師事。三田学園高等学校卒業、現在京都市立芸術大学ヴィオラ専攻1回生。

Cello 鷺見 敏 Sumi Satoshi

兵庫県西宮市出身。

10歳よりチェロを始め、中学生の時より相愛オーケストラに参加。また、フランス・ラ・ロワンテーヌマスタークラス、飯森範親・森悠子のオーケストラ・室内楽セミナー等に参加、森悠子、安紀・ソリエール、ラファエル・ベル氏らの元で研鑽を積む。

これまでに小川剛一郎、林裕、上村昇各氏に師事。現在、京都市立芸術大学1回生。

Piano 矢野 百華 Yano Momoka

1995年生まれ。5歳よりピアノを始める。

06、08年兵庫県学生ピアノコンクールC部門最優秀賞、D部門優秀賞。06年全日本学生音楽コンクール大阪大会小学校の部第3位。09年、11年宝塚ベガ学生ピアノコンクール中学生部門第1位、高校生部門第2位。07、10、11、12年PTNAピアノコンペティションE級、F級、G級全国大会入選。

兵庫県立西宮高校音楽科を経て、現在京都市立芸術大学1回生。



----- # 曲目の紹介 # -----

1. シューベルト：弦楽四重奏「ロザムンデ」

シューベルトの晩年(20代後半)に作曲された。曲の構成は古典的だが、ベートーヴェンやモーツァルトとは一味違うロマンティックなムードが漂う。ニックネームの「ロザムンデ」は同名の劇音楽に由来したもの。第1楽章は第2ヴァイオリンの揺れ動くような伴奏の音型とヴィオラとチェロによる不安げな伴奏の上に、美しい第1主題が連綿と歌われる。第4楽章はハンガリーの舞曲風のメロディーがリズムカルに展開していく。

2. パッヘルベル：カノン

ドイツの作曲家ヨハン・パッヘルベルが1680年頃に作曲した。パッヘルベルの作品の多くはオルガンのために書かれたものだが、弦楽のための曲も数曲残されており、そのうちの1曲。4小節単位でコードが循環する「カノン進行」が特徴。ポピュラー音楽やBGMなどに引用されることも多く、広く親しまれている。

3. ドビュッシー：2つのアラバスク 第1番

フランスの作曲家ドビュッシーの1888年頃の作品。流れるようなアルペジオに乗せて優雅で洗練されたメロディーが印象的なピアノ曲。「アラバスク」とは「アラビア風」という意味で、イスラム教徒が装飾品にあしらっていた模様を指す。

4. バッハ=ブゾーニ：無伴奏ヴァイオリンのためのパルティータから「シャコンヌ」

元はバッハがヴァイオリンの曲として作ったものを、ブゾーニ(イタリア出身で、ドイツを中心に活躍した作曲家・ピアニスト)がピアノ曲にアレンジした。アレンジしたものの中でも最大級の評価を受けており、有名なピアニスト、ルービンシュタインも、「これはピアノ音楽の傑作である。バッハ自身も容認したに違いない」と述べている。

5. ピアソラ：リベルタンゴ

曲名は「リベルタ(自由)」と「タンゴ」を合成して付けられたもの。全曲に渡り躍動するリズム感とエネルギーにあふれる。1973年にピアソラがブエノスアイレスからイタリアに移ったときに作曲されており、そのときの気力充実が曲に反映している。

6. ピアソラ：ブエノスアイレスの春

長く激しい冬を耐え春には新しい命が芽吹く、そんな力強い生命を表現した作品で、ヨーロッパからの移民が築き上げたアルゼンチンの首都、ブエノスアイレスで生きる人々の情熱や哀愁が強く込められている。